

世界ハイブリッド証券ファンド通貨選択シリーズ (毎月分配型) <円コース><豪ドルコース><ブラジルリアルコース><中国元コース>

追加型投信／内外／債券

受益者の皆さまへ

毎々格別のお引立てに預かり厚くお礼申し上げます。

各ファンドは、主として円建ての外国投資信託への投資を通じて、先進国の金融機関が発行したハイブリッド証券に実質的な投資を行い、信託財産の成長を図ることを目的として、積極的な運用を行います。

当作成対象期間につきましても、これに沿った運用を行いました。ここに、運用経過等をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

作成対象期間 2019年4月24日～2019年10月23日

第112期	決算日：2019年5月23日
第113期	決算日：2019年6月24日
第114期	決算日：2019年7月23日
第115期	決算日：2019年8月23日
第116期	決算日：2019年9月24日
第117期	決算日：2019年10月23日

第117期末 (2019年10月23日)

	<円コース>	<豪ドルコース>
基準価額	7,202円	6,170円
純資産総額	556百万円	73百万円
第112期～第117期 騰落率	1.1%	△4.4%
第117期 分配金合計	120円	210円
	<ブラジルリアルコース>	<中国元コース>
基準価額	3,608円	9,800円
純資産総額	485百万円	171百万円
第112期～第117期 騰落率	△4.1%	△3.8%
第117期 分配金合計	240円	330円

(注1) 騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率を表示しています。
 (注2) △ (白三角) はマイナスを意味しています (以下同じ)。

当ファンドは投資信託約款において、運用報告書(全体版)を電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、下記のホームページにアクセスし、「基準価額一覧」等から当ファンドの名称を選択いただき、ファンドの詳細ページから閲覧、ダウンロードすることができます。また、運用報告書(全体版)は受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

■運用報告書に関するお問い合わせ先

コールセンター **0120-104-694**

(受付時間：営業日の午前9時から午後5時まで)

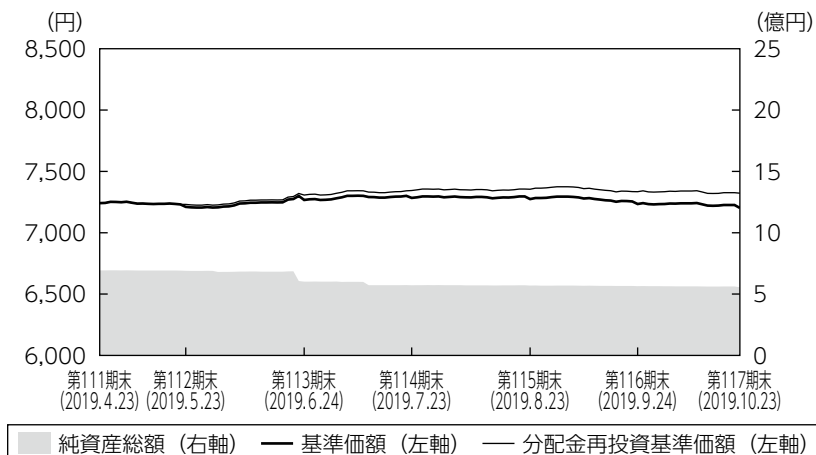
お客さまのお取引内容につきましては、購入された販売会社にお問い合わせください。

アセットマネジメントOne 株式会社

東京都千代田区丸の内1-8-2 <http://www.am-one.co.jp/>

運用経過の説明

基準価額等の推移



第112期首： 7,241円
 第117期末： 7,202円
 (既払分配金120円)
 騰落率： 1.1%
 (分配金再投資ベース)

- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、期首の基準価額に合わせて指数化しています。
- (注4) 当ファンドはベンチマークを定めておりません。

基準価額の主な変動要因

グローバル経済に対する減速懸念が高まり、F R B（米連邦準備理事会）とE C B（欧州中央銀行）が金融緩和姿勢を強めたことから、主要先進国の国債利回りは低下（価格は上昇）しました。一方、ハイブリッド証券は、投資家のリスクセンチメントが安定的に推移したこと、国債利回りがさらに低下する中で投資家が高い利回りを求める動きが強まったことから、国債利回りとの格差を示す信用スプレッドは縮小しました。その結果、基準価額は上昇しました。

◆組入ファンドの当作成期間の騰落率

組入ファンド	騰落率
ダイアム フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス (JPY)	1.8%
D I A Mマネーマザーファンド	0.0%

(注) ダイアム フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス (JPY) の騰落率は、分配金を再投資したものとみなして計算したものです。

1 万口当たりの費用明細

項目	第112期～第117期 (2019年4月24日 ～2019年10月23日)		項目の概要
	金額	比率	
	(a) 信託報酬	49円	
(投信会社)	(18)	(0.248)	
(販売会社)	(29)	(0.406)	
(受託会社)	(2)	(0.021)	
(b) その他費用 (監査費用)	0 (0)	0.001 (0.001)	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用
合計	49	0.676	

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

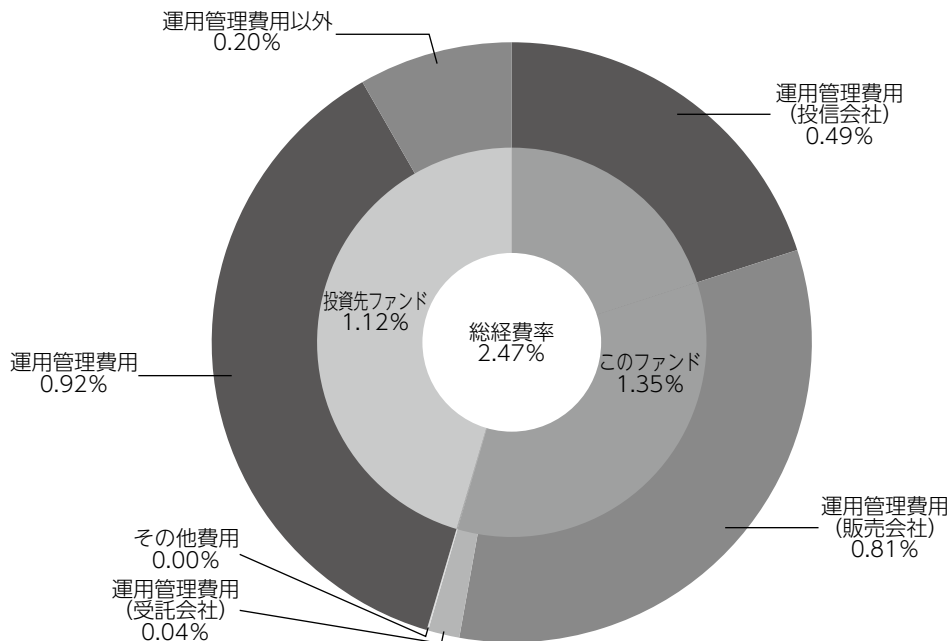
(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(注4) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く）が支払った費用を含みません。

(参考情報)

◆総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は2.47%です。



総経費率 (①+②+③)	2.47%
①このファンドの費用の比率	1.35%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.92%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.20%

(注1) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

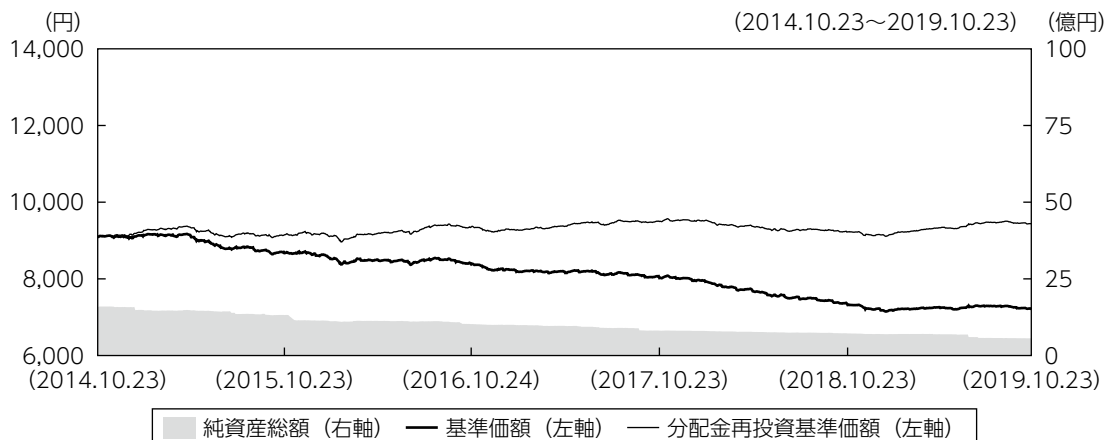
(注4) 投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注5) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注6) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

最近5年間の基準価額等の推移



- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、2014年10月23日の基準価額に合わせて指数化しています。

		2014年10月23日 期首	2015年10月23日 決算日	2016年10月24日 決算日	2017年10月23日 決算日	2018年10月23日 決算日	2019年10月23日 決算日
基準価額 (分配落)	(円)	9,098	8,671	8,378	8,021	7,318	7,202
期間分配金合計 (税引前)	(円)	—	480	480	480	480	280
分配金再投資基準価額の騰落率	(%)	—	0.6	2.2	1.5	△2.9	2.3
純資産総額	(百万円)	1,584	1,318	1,022	810	720	556

(注) 当ファンドのコンセプトに適した指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指標を定めておりません。

投資環境

ハイブリッド証券市場は上昇しました。グローバル経済に対する減速懸念が高まり、F R BとE C Bが金融緩和姿勢を強めたことから、主要先進国の国債利回りは低下（価格は上昇）しました。投資家のリスクセンチメントが安定的に推移したこと、国債利回りがさらに低下する中で投資家が高い利回りを求める動きが強まったことから、信用スプレッドは縮小しました。

国内短期金融市場では、3ヵ月物国庫短期証券利回りは△0.3%台から△0.0%台のレンジで推移しました。F R Bが、米中貿易問題の深刻化が米国景気に悪影響を与えるのではないかとの見方から再び金融緩和姿勢を強める中、日銀は消費増税の影響を見極めるため緩和的な金融政策を維持しています。そのため、3ヵ月物国庫短期証券利回りは小幅な動きとなりました。

ポートフォリオについて

●当ファンド

ダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス（J P Y）の組入比率は原則として高位を維持し、D I A Mマネーマザーファンドへの投資も行いました。

●ダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス（J P Y）

世界の主要金融機関が発行するハイブリッド証券を中心にポートフォリオを構成しました。発行体の業績動向や信用力に加えて、ハイブリッド証券特有のリスクを評価し、分散投資を基本としました。国別配分においては、フランス、米国、英国のウェイトを高く維持しました。債券種別においては、期限付劣後債のみのポートフォリオとしました。

また、ユーロ、米ドルなど複数通貨（以下、「原資産通貨」といいます。）を売り予約し、円を買い予約する為替取引を行いました。

●D I A Mマネーマザーファンド

残存期間の短い国債や政府保証債、地方債などで運用を行いました。

分配金

当作成期の収益分配金につきましては運用実績等を勘案し、以下の表の通りとさせていただきます。なお、収益分配金に充てなかった利益は信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

■分配原資の内訳（1万口当たり）

項目	第112期	第113期	第114期	第115期	第116期	第117期
	2019年4月24日 ~2019年5月23日	2019年5月24日 ~2019年6月24日	2019年6月25日 ~2019年7月23日	2019年7月24日 ~2019年8月23日	2019年8月24日 ~2019年9月24日	2019年9月25日 ~2019年10月23日
当期分配金（税引前）	20円	20円	20円	20円	20円	20円
対基準価額比率	0.28%	0.27%	0.27%	0.27%	0.28%	0.28%
当期の収益	20円	20円	20円	20円	20円	20円
当期の収益以外	-円	-円	-円	-円	-円	-円
翌期繰越分配対象額	246円	253円	257円	259円	260円	262円

（注1）「当期の収益」および「当期の収益以外」は、小数点以下切捨てで算出しているためこれらを合計した額と「当期分配金（税引前）」の額が一致しない場合があります。

（注2）当期分配金の「対基準価額比率」は「当期分配金（税引前）」の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。また、小数点第3位を四捨五入しています。

（注3）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後・繰越欠損補填後の売買益（含、評価益）」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備積立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。

今後の運用方針

●当ファンド

引き続き、ダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス（J P Y）を高位に組入れることを基本とした運用を行います。また、D I A Mマネーマザーファンドへの投資も行います。

●ダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス（J P Y）

主要先進国の国債利回りが低水準で推移する中、高い利回りを享受できるハイブリッド証券に対する投資家の需要は根強く、市場は堅調に推移すると思われます。引き続き、発行国、発行体、銘柄の分散を十分に図りながら、世界の主要金融機関に継続して投資します。銘柄選択においては、繰上償還リスク、利息・配当繰延リスクなど、ハイブリッド証券特有のリスクが債券価格に十分織り込まれた銘柄を厳選します。加えて、「原資産通貨」を売り予約し、円を買い予約する為替取引を行います。

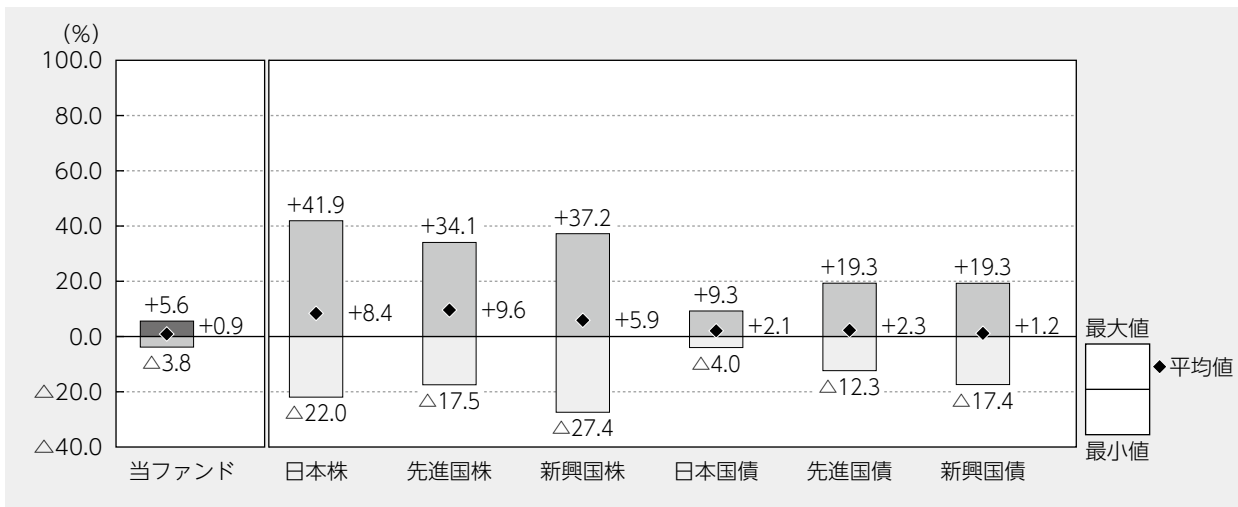
●D I A Mマネーマザーファンド

日銀の物価目標である2%まではまだ距離があるため、当面は金融政策を据え置くと予想されています。今後も公社債を中心に投資を行い、安定的な運用をめざしていきます。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／債券
信託期間	2010年1月20日から2020年1月23日までです。
運用方針	信託財産の成長を図ることを目的として、積極的な運用を行います。
主要投資対象	主として円建ての外国投資信託である「ダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス（J P Y）」の投資信託証券へ投資を行います。また、証券投資信託である「D I A Mマネーマザーファンド」受益証券への投資も行います。なお、短期金融商品等に直接投資する場合があります。
運用方法	主として円建ての外国投資信託への投資を通じて、先進国の金融機関（*1）が発行したハイブリッド証券（*2）に実質的な投資を行います。外国投資信託への投資比率は、原則として高位を保ちます。 （*1）金融機関に関連する特別目的会社を含みます。 （*2）ハイブリッド証券とは、普通社債と株式の中間的特性を有する有価証券であり、劣後債、優先出資証券などをいいます。 外国投資信託においては、ユーロ、米ドルなど複数通貨（以下、「原資産通貨」といいます。）建てのハイブリッド証券に投資しますが、この「原資産通貨」を売り予約し、円を買い予約する為替取引を行います。
分配方針	決算日（原則として毎月23日。休業日の場合は翌営業日。）に、経費控除後の利子配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額とし、基準価額水準、市況動向等を勘案して、分配金額を決定します。原則として利子配当等収益等を中心に安定分配を行うことを基本とします。ただし、分配対象額が少額の場合は分配を行わない場合があります。また、毎年1月および7月の決算時には、上記安定分配相当額に委託会社が決定する額を付加して分配する場合があります。 「原則として利子配当等収益等を中心に安定分配を行う」方針としていますが、これは、運用による収益が安定したものになることや基準価額が安定的に推移すること等を示唆するものではありません。また、基準価額の水準、運用の状況等によっては安定分配とならない場合があることにご留意ください。

代表的な資産クラスとの騰落率の比較



2014年10月～2019年9月

(注1) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注2) 上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を、ファンドおよび代表的な資産クラスについて表示し、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。なお、上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注3) 当ファンドの騰落率は、税引前の分配金を再投資したものと計算しています。

*各資産クラスの指数

日本株…東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株…MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株…MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債…NOMURA-BPI国債

先進国国債…FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債…JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースィファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

※各指数については後掲の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

当ファンドのデータ

当ファンドの組入資産の内容（2019年10月23日現在）

世界ハイブリッド証券ファンド通貨選択シリーズ（毎月分配型）＜円コース＞

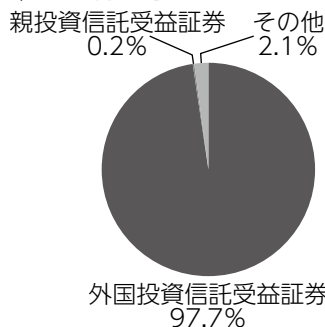
◆組入ファンド等（組入ファンド数：2ファンド）

	第117期末
	2019年10月23日
ダイヤモンドファイナンスセキュリティーズファンドクラス（JPY）	97.7%
DIAMマネーマザーファンド	0.2
その他	2.1

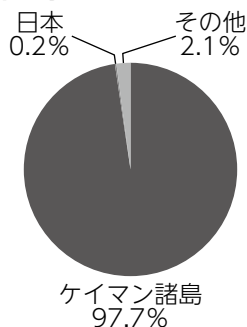
（注1）比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

（注2）現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

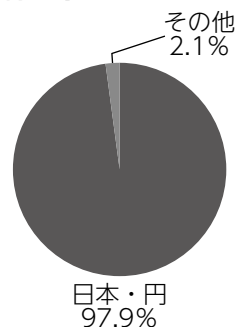
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



（注1）比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

（注2）現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

純資産等

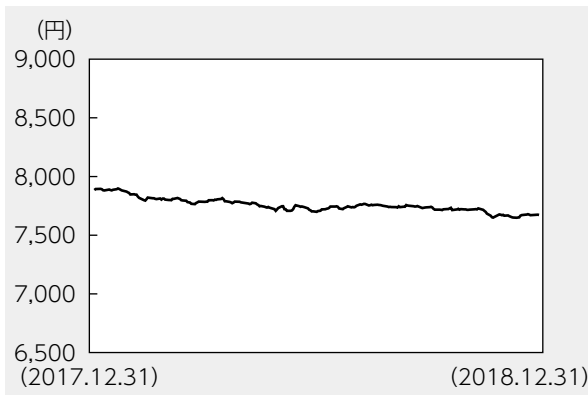
項目	第112期末	第113期末	第114期末	第115期末	第116期末	第117期末
	2019年5月23日	2019年6月24日	2019年7月23日	2019年8月23日	2019年9月24日	2019年10月23日
純資産総額	689,715,300円	601,351,744円	572,075,894円	569,689,675円	564,552,998円	556,095,109円
受益権総口数	956,458,159口	827,507,900口	785,356,441口	783,205,789口	780,384,472口	772,183,635口
1万口当たり基準価額	7,211円	7,267円	7,284円	7,274円	7,234円	7,202円

（注）当作成期間（第112期～第117期）中における追加設定元本額は568,474円、同解約元本額は185,288,039円です。

組入ファンドの概要

【ダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス (J P Y)】 (計算期間 2018年1月1日~2018年12月31日)

◆基準価額の推移



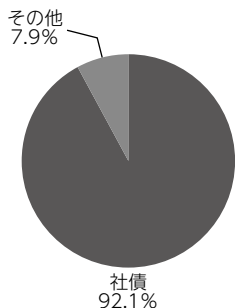
◆組入上位10銘柄

銘柄名	通貨	比率
SKANDINAV ENSKI 05/28/26	ユーロ	3.6%
STANDARD CHART 3.63% 11/23/22	ユーロ	3.6
BPCE 4.63% 07/18/23	ユーロ	3.5
CREDIT AGRICOLE 7.38% 12/18/23	イギリス・ポンド	3.2
SANTANDER ISSUA 2.50% 03/18/25	ユーロ	3.1
SWEDBANK AB FXtoVA 11/22/27 EMTN	ユーロ	3.0
KBC GROUP NV FXtoVA 09/18/29 EMTN	ユーロ	3.0
BANQ FED CRD MU 3.00% 05/21/24	ユーロ	2.9
ABN AMRO BANK N 7.125% 07/06/2022	ユーロ	2.8
SOCIETE GENERAL 4.00% 06/07/23	ユーロ	2.6
組入銘柄数	48銘柄	

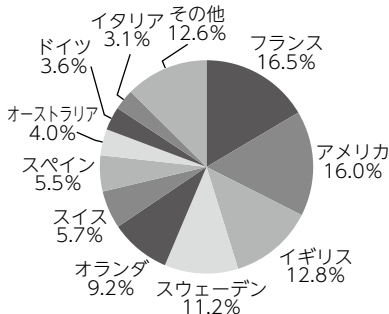
◆1口当たりの費用明細

費用明細については開示されていないため、掲載しておりません。

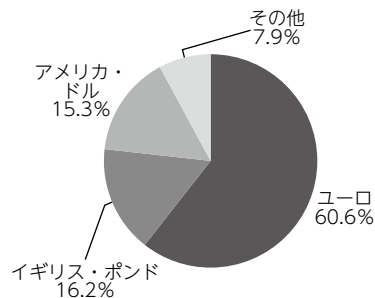
◆資産別配分



◆国別配分



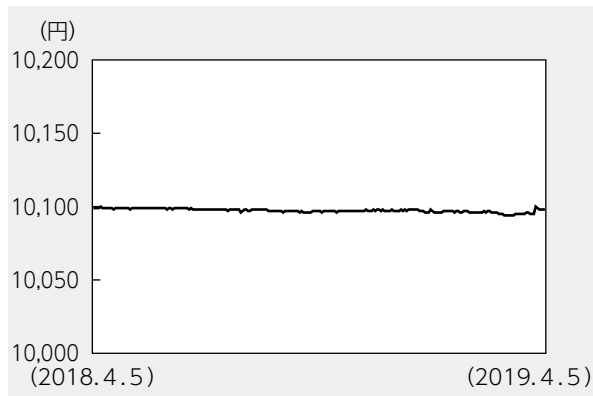
◆通貨別配分



- (注1) 基準価額の推移はダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス (J P Y) の計算期間 (決算日が休日の場合は前営業日まで) のものです。また、分配金を再投資したものとアセットマネジメントOneが作成したものです。
- (注2) 組入上位10銘柄、資産別配分、国別配分、通貨別配分については、ダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンドの決算日 (決算日が休日の場合は前営業日) 現在の状況を表示しております。なお、組入外貨建資産については、ダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス (J P Y) において、「原資産通貨」を売り予約し、円を買い予約する為替取引を行っています。
- (注3) 比率はダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンドの純資産総額に対する組入有価証券評価額の割合です。
- (注4) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。
- (注5) 国別配分については、上位11位以下をその他に含めて集計しています。
- (注6) 組入上位10銘柄、資産別配分、国別配分、通貨別配分のデータは、管理事務代行会社であるMizuho Bank(USA)のデータを基にアセットマネジメントOneが作成したものです。組入全銘柄や費用の総額に関する詳細な情報等については、運用報告書 (全体版) に記載されています。

【D I AMマネーマザーファンド】（計算期間 2018年4月6日～2019年4月5日）

◆基準価額の推移



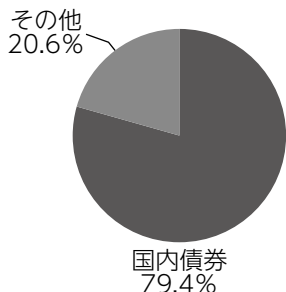
◆組入上位10銘柄

銘柄名	通貨	比率
1 2 3回 利付国庫債券（5年）	日本・円	74.4%
3 9 1回 利付国庫債券（2年）	日本・円	1.2
3 0 1回 利付国庫債券（10年）	日本・円	1.2
3 9 2回 利付国庫債券（2年）	日本・円	0.6
3 8 8回 利付国庫債券（2年）	日本・円	0.6
2 1年度3 5回 兵庫県公募公債	日本・円	0.3
1 1 2回 政保日本高速道路保有・債務返済機構	日本・円	0.2
2 6年度4回 静岡県公募公債	日本・円	0.1
2 7年度2回 千葉県公募公債	日本・円	0.1
2 7年度 京都府京都みらい債	日本・円	0.1
組入銘柄数	22銘柄	

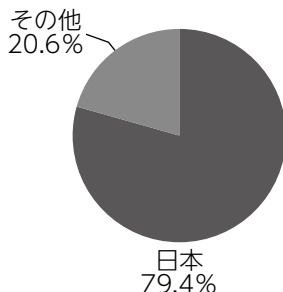
◆1万円当たりの費用明細

項目	当期	
	金額	比率
(a) その他費用 （その他）	0円 (0)	0.000% (0.000)
合計	0	0.000

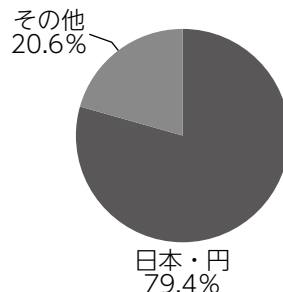
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



(注1) 基準価額の推移、1万円当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものであります。

(注2) 1万円当たりの費用明細の金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。比率欄は「1万円当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額（10,097円）で除して100を乗じたものです。なお、(a) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数です。その他は、信託事務の処理に要する諸費用等です。

(注3) 組入上位銘柄、資産別配分・国別配分・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

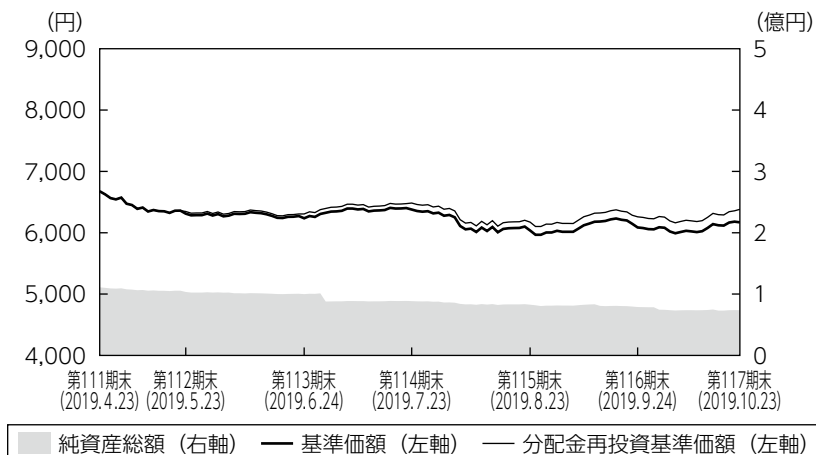
(注4) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注5) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

(注6) 計算期間中の運用経過や組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

運用経過の説明

基準価額等の推移



第112期首：6,676円
 第117期末：6,170円
 (既払分配金210円)
 騰落率：△4.4%
 (分配金再投資ベース)

- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、期首の基準価額に合わせて指数化しています。
- (注4) 当ファンドはベンチマークを定めておりません。

基準価額の主な変動要因

ハイブリッド証券利回りと国債利回りの格差を示す信用スプレッドが縮小したことと、世界的な金利の低下を背景にハイブリッド証券価格が上昇したことがプラス要因となりました。豪ドルは米中貿易摩擦の激化や中国経済の減速懸念により、対円で下落しました。オーストラリア経済の減速傾向が明らかになる中、オーストラリア準備銀行が金融緩和姿勢を強め、政策金利を引き下げたことも豪ドル安の要因となりました。その結果、為替のマイナス要因がハイブリッド証券価格上昇のプラス要因を上回り、基準価額は下落しました。

◆組入ファンドの当作成期間の騰落率

組入ファンド	騰落率
ダイヤモンドフィナンシャルセキュリティーズファンドクラス (AUD)	△4.1%
DIAMマネーマザーファンド	0.0%

(注) ダイヤモンドフィナンシャルセキュリティーズファンドクラス (AUD) の騰落率は、分配金を再投資したものとみなして計算したものです。

1 万口当たりの費用明細

項目	第112期～第117期 (2019年4月24日 ～2019年10月23日)		項目の概要
	金額	比率	
	(a) 信託報酬	42円	
(投信会社)	(15)	(0.248)	
(販売会社)	(25)	(0.406)	
(受託会社)	(1)	(0.021)	
(b) その他費用 (監査費用)	0 (0)	0.001 (0.001)	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用
合計	42	0.676	

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

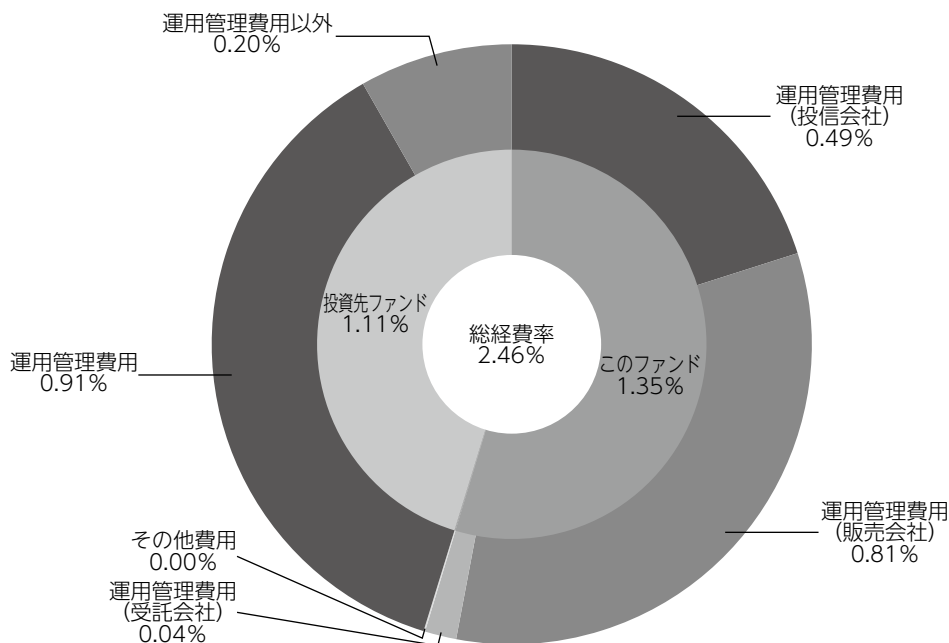
(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(注4) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く）が支払った費用を含みません。

(参考情報)

◆総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は2.46%です。



総経費率 (①+②+③)	2.46%
①このファンドの費用の比率	1.35%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.91%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.20%

(注1) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

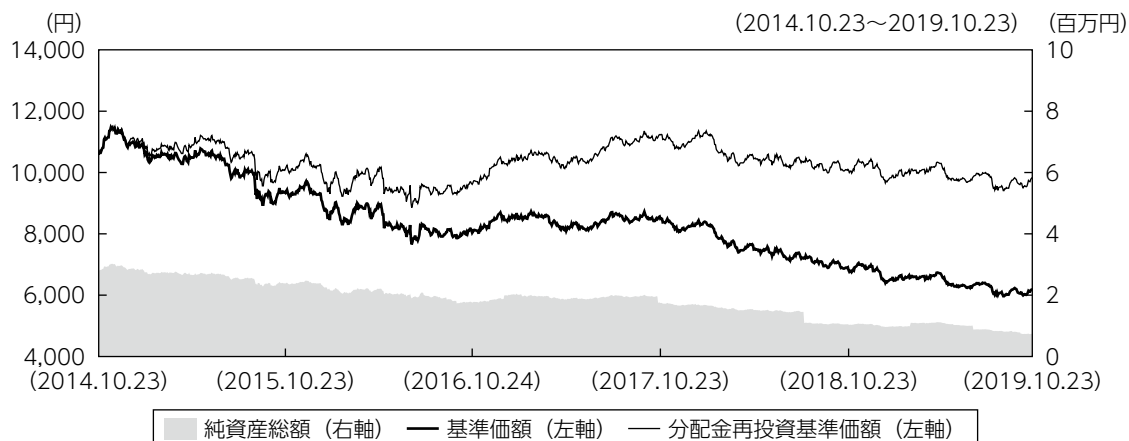
(注4) 投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注5) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注6) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

最近5年間の基準価額等の推移



- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、2014年10月23日の基準価額に合わせて指数化しています。

	2014年10月23日 期首	2015年10月23日 決算日	2016年10月24日 決算日	2017年10月23日 決算日	2018年10月23日 決算日	2019年10月23日 決算日
基準価額 (分配落)	(円) 10,582	9,332	8,030	8,489	6,812	6,170
期間分配金合計 (税引前)	(円) —	840	840	840	840	490
分配金再投資基準価額の騰落率	(%) —	△4.3	△5.0	16.8	△10.3	△2.3
純資産総額	(百万円) 279	237	175	174	103	73

(注) 当ファンドのコンセプトに適した指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指標を定めておりません。

投資環境

ハイブリッド証券市場は上昇しました。グローバル経済に対する減速懸念が高まり、F R B（米連邦準備理事会）とE C B（欧州中央銀行）が金融緩和姿勢を強めたことから、主要先進国の国債利回りは低下（価格は上昇）しました。投資家のリスクセンチメントが安定的に推移したこと、国債利回りがさらに低下する中で投資家が高い利回りを求める動きが強まったことから、信用スプレッドは縮小しました。

豪ドル／円相場は円高豪ドル安となりました。当作成期は、米中貿易摩擦の激化や中国経済の減速懸念が、豪ドル安の主な要因となりました。また、オーストラリア経済の減速傾向が明らかになる中、オーストラリア準備銀行が金融緩和姿勢を強め、政策金利を引き下げたことも豪ドル安の要因となりました。作成期末にかけては、米中貿易協議における合意期待が高まったことにより、豪ドルの買い戻しが見られました。

国内短期金融市場では、3ヵ月物国庫短期証券利回りは△0.3%台から△0.0%台のレンジで推移しました。F R Bが、米中貿易問題の深刻化が米国景気に悪影響を与えるのではないかとの見方から再び金融緩和姿勢を強める中、日銀は消費増税の影響を見極めるため緩和的な金融政策を維持しています。そのため、3ヵ月物国庫短期証券利回りは小幅な動きとなりました。

ポートフォリオについて

●当ファンド

ダイアム フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス（AUD）の組入比率は原則として高位を維持し、D I A Mマネーマザーファンドへの投資も行いました。

●ダイアム フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス（AUD）

世界の主要金融機関が発行するハイブリッド証券を中心にポートフォリオを構成しました。発行体の業績動向や信用力に加えて、ハイブリッド証券特有のリスクを評価し、分散投資を基本としました。国別配分においては、フランス、米国、英国のウェイトを高く維持しました。債券種別においては、期限付劣後債のみのポートフォリオとしました。

また、ユーロ、米ドルなど複数通貨（以下、「原資産通貨」といいます。）を売り予約し、豪ドルを買い予約する為替取引を行いました。

●D I A Mマネーマザーファンド

残存期間の短い国債や政府保証債、地方債などで運用を行いました。

分配金

当作成期の収益分配金につきましては運用実績等を勘案し、以下の表の通りとさせていただきます。なお、収益分配金に充てなかった利益は信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

■分配原資の内訳（1万口当たり）

項目	第112期	第113期	第114期	第115期	第116期	第117期
	2019年4月24日 ～2019年5月23日	2019年5月24日 ～2019年6月24日	2019年6月25日 ～2019年7月23日	2019年7月24日 ～2019年8月23日	2019年8月24日 ～2019年9月24日	2019年9月25日 ～2019年10月23日
当期分配金（税引前）	35円	35円	35円	35円	35円	35円
対基準価額比率	0.55%	0.56%	0.55%	0.58%	0.57%	0.56%
当期の収益	35円	35円	35円	35円	35円	35円
当期の収益以外	-円	-円	-円	-円	-円	-円
翌期繰越分配対象額	2,325円	2,327円	2,334円	2,336円	2,343円	2,350円

（注1）「当期の収益」および「当期の収益以外」は、小数点以下切捨てで算出しているためこれらを合計した額と「当期分配金（税引前）」の額が一致しない場合があります。

（注2）当期分配金の「対基準価額比率」は「当期分配金（税引前）」の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。また、小数点第3位を四捨五入しています。

（注3）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後・繰越欠損補填後の売買益（含、評価益）」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備積立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。

今後の運用方針

●当ファンド

引き続き、ダイヤモンドフィナンシャルセキュリティーズファンドクラス（AUD）を高位に組入れることを基本とした運用を行います。また、D I AMマネーマザーファンドへの投資も行います。

●ダイヤモンドフィナンシャルセキュリティーズファンドクラス（AUD）

主要先進国の国債利回りが低水準で推移する中、高い利回りを享受できるハイブリッド証券に対する投資家の需要は根強く、市場は堅調に推移すると思われます。引き続き、発行国、発行体、銘柄の分散を十分に図りながら、世界の主要金融機関に継続して投資します。銘柄選択においては、繰上償還リスク、利息・配当繰延リスクなど、ハイブリッド証券特有のリスクが債券価格に十分織り込まれた銘柄を厳選します。加えて、「原資産通貨」を売り予約し、豪ドルを買い予約する為替取引を行います。

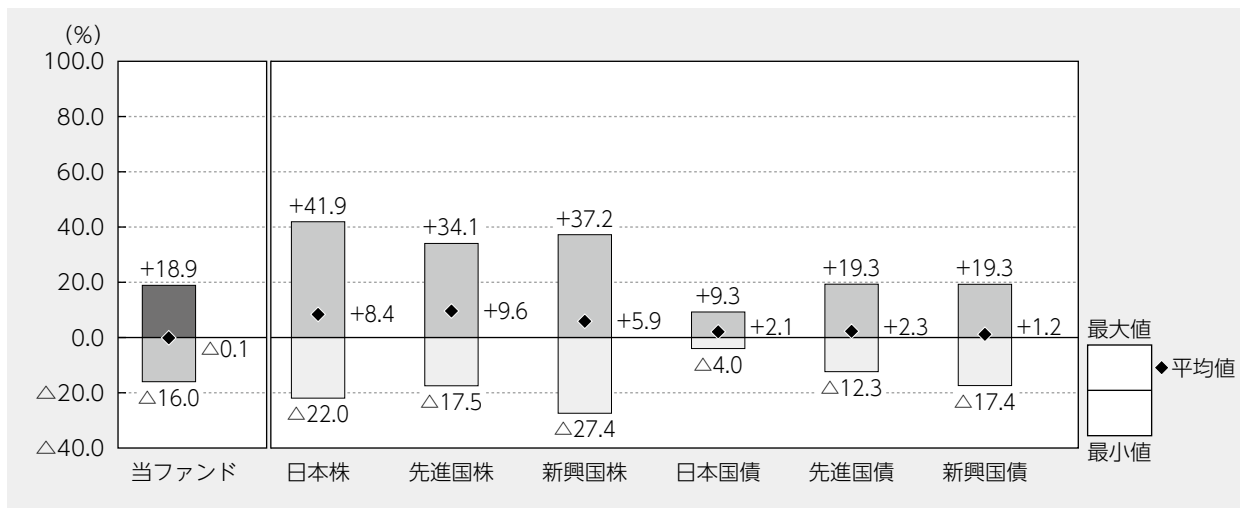
●D I AMマネーマザーファンド

日銀の物価目標である2%まではまだ距離があるため、当面は金融政策を据え置くと予想されています。今後も公社債を中心に投資を行い、安定的な運用をめざしていきます。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／債券
信託期間	2010年1月20日から2020年1月23日までです。
運用方針	信託財産の成長を図ることを目的として、積極的な運用を行います。
主要投資対象	主として円建ての外国投資信託である「ダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス (AUD)」の投資信託証券へ投資を行います。また、証券投資信託である「DIAMマネーマザーファンド」受益証券への投資も行います。なお、短期金融商品等に直接投資する場合があります。
運用方法	主として円建ての外国投資信託への投資を通じて、先進国の金融機関(*1)が発行したハイブリッド証券(*2)に実質的な投資を行います。外国投資信託への投資比率は、原則として高位を保ちます。 (*1) 金融機関に関連する特別目的会社を含みます。 (*2) ハイブリッド証券とは、普通社債と株式の中間的特性を有する有価証券であり、劣後債、優先出資証券などをいいます。 外国投資信託においては、ユーロ、米ドルなど複数通貨(以下、「原資産通貨」といいます。)建てのハイブリッド証券に投資しますが、この「原資産通貨」を売り予約し、豪ドルを買い予約する為替取引を行います。
分配方針	決算日(原則として毎月23日。休業日の場合は翌営業日。)に、経費控除後の利子配当等収益および売買益(評価益を含みます。)等の全額を分配対象額とし、基準価額水準、市況動向等を勘案して、分配金額を決定します。原則として利子配当等収益等を中心に安定分配を行うことを基本とします。ただし、分配対象額が少額の場合は分配を行わない場合があります。また、毎年1月および7月の決算時には、上記安定分配相当額に委託会社が決定する額を付加して分配する場合があります。 「原則として利子配当等収益等を中心に安定分配を行う」方針としていますが、これは、運用による収益が安定したものになることや基準価額が安定的に推移すること等を示唆するものではありません。また、基準価額の水準、運用の状況等によっては安定分配とならない場合があることにご留意ください。

代表的な資産クラスとの騰落率の比較



2014年10月～2019年9月

(注1) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注2) 上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を、ファンドおよび代表的な資産クラスについて表示し、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。なお、上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注3) 当ファンドの騰落率は、税引前の分配金を再投資したものと計算しています。

*各資産クラスの指数

日本株…東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株…MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)

新興国株…MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債…NOMURA-BPI国債

先進国債…FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債…JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースィファイド (円ベース)

(注) 海外の指数は為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

※各指数については後掲の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

当ファンドのデータ

当ファンドの組入資産の内容 (2019年10月23日現在)

世界ハイブリッド証券ファンド通貨選択シリーズ (毎月分配型) <豪ドルコース>

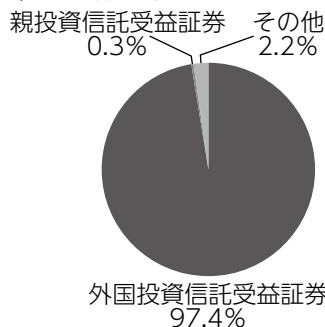
◆組入ファンド等 (組入ファンド数：2ファンド)

	第117期末
	2019年10月23日
ダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス (AUD)	97.4%
D I A M マネーマザーファンド	0.3
その他	2.2

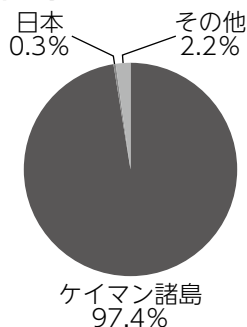
(注1) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

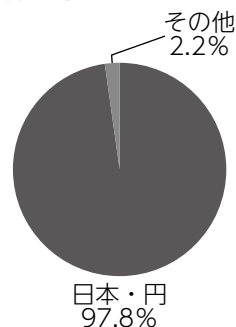
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



(注1) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

純資産等

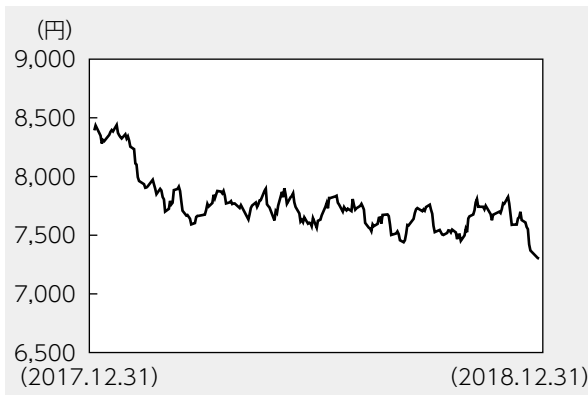
項目	第112期末	第113期末	第114期末	第115期末	第116期末	第117期末
	2019年5月23日	2019年6月24日	2019年7月23日	2019年8月23日	2019年9月24日	2019年10月23日
純資産総額	103,461,245円	99,905,381円	88,430,781円	82,689,777円	78,883,010円	73,728,434円
受益権総口数	163,926,952口	160,201,005口	138,639,988口	136,989,296口	129,611,139口	119,501,249口
1万口当たり基準価額	6,311円	6,236円	6,378円	6,036円	6,086円	6,170円

(注) 当作成期間 (第112期～第117期) 中における追加設定元本額は893,815円、同解約元本額は47,604,309円です。

組入ファンドの概要

【ダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス (AUD)】（計算期間 2018年1月1日～2018年12月31日）

◆基準価額の推移



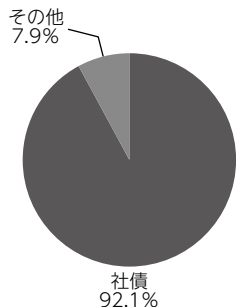
◆組入上位10銘柄

銘柄名	通貨	比率
SKANDINAV ENSKI 05/28/26	ユーロ	3.6%
STANDARD CHART 3.63% 11/23/22	ユーロ	3.6
BPCE 4.63% 07/18/23	ユーロ	3.5
CREDIT AGRICOLE 7.38% 12/18/23	イギリス・ポンド	3.2
SANTANDER ISSUA 2.50% 03/18/25	ユーロ	3.1
SWEDBANK AB FXtoVA 11/22/27 EMTN	ユーロ	3.0
KBC GROUP NV FXtoVA 09/18/29 EMTN	ユーロ	3.0
BANQ FED CRD MU 3.00% 05/21/24	ユーロ	2.9
ABN AMRO BANK N 7.125% 07/06/2022	ユーロ	2.8
SOCIETE GENERAL 4.00% 06/07/23	ユーロ	2.6
組入銘柄数	48銘柄	

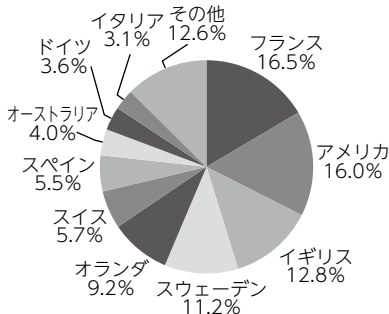
◆1口当たりの費用明細

費用明細については開示されていないため、掲載しておりません。

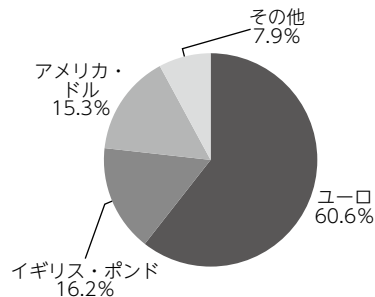
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分

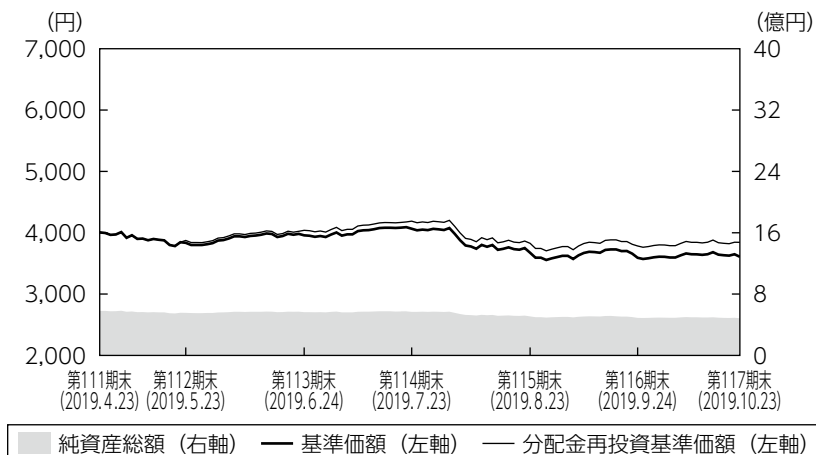


- (注1) 基準価額の推移はダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス (AUD) の計算期間（決算日が休日の場合は前営業日まで）のもので、また、分配金を再投資したものとアセットマネジメントOneが作成したものです。
- (注2) 組入上位10銘柄、資産別配分、国別配分、通貨別配分については、ダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンドの決算日（決算日が休日の場合は前営業日）現在の状況を表示しております。なお、組入外貨建資産については、ダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス (AUD) において、「原資産通貨」を売り予約し、豪ドルを買い予約する為替取引を行っています。
- (注3) 比率はダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンドの純資産総額に対する組入有価証券評価額の割合です。
- (注4) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。
- (注5) 国別配分については、上位11位以下をその他に含めて集計しています。
- (注6) 組入上位10銘柄、資産別配分、国別配分、通貨別配分のデータは、管理事務代行会社であるMizuho Bank(USA)のデータを基にアセットマネジメントOneが作成したものです。組入全銘柄や費用の総額に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

D I AMマネーマザーファンドの概要については、11ページをご覧ください。

運用経過の説明

基準価額等の推移



第112期首： 4,006円
 第117期末： 3,608円
 (既払分配金240円)
 騰落率： △4.1%
 (分配金再投資ベース)

- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、期首の基準価額に合わせて指数化しています。
- (注4) 当ファンドはベンチマークを定めておりません。

基準価額の主な変動要因

ハイブリッド証券は、対国債での信用スプレッド（利回り格差）が縮小するとともに、世界的な金利低下を背景に債券価格が上昇したことがプラス要因となりました。ブラジルリアルは、米中貿易摩擦への懸念やグローバル経済に対する減速懸念が高まったことやブラジル中央銀行の政策金利引き下げなどにより下落しました。その結果、為替のマイナス要因が証券価格上昇のプラス要因を上回り、基準価額は下落しました。

◆組入ファンドの当作成期間の騰落率

組入ファンド	騰落率
ダイアム フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス (BRL)	△3.6%
D I A Mマネーマザーファンド	0.0%

(注) ダイアム フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス (BRL) の騰落率は、分配金を再投資したものとみなして計算したものです。

1 万口当たりの費用明細

項目	第112期～第117期 (2019年4月24日 ～2019年10月23日)		項目の概要
	金額	比率	
	(a) 信託報酬	26円	
(投信会社)	(10)	(0.248)	
(販売会社)	(16)	(0.405)	
(受託会社)	(1)	(0.021)	
(b) その他費用 (監査費用)	0 (0)	0.000 (0.000)	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用
合計	26	0.675	

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

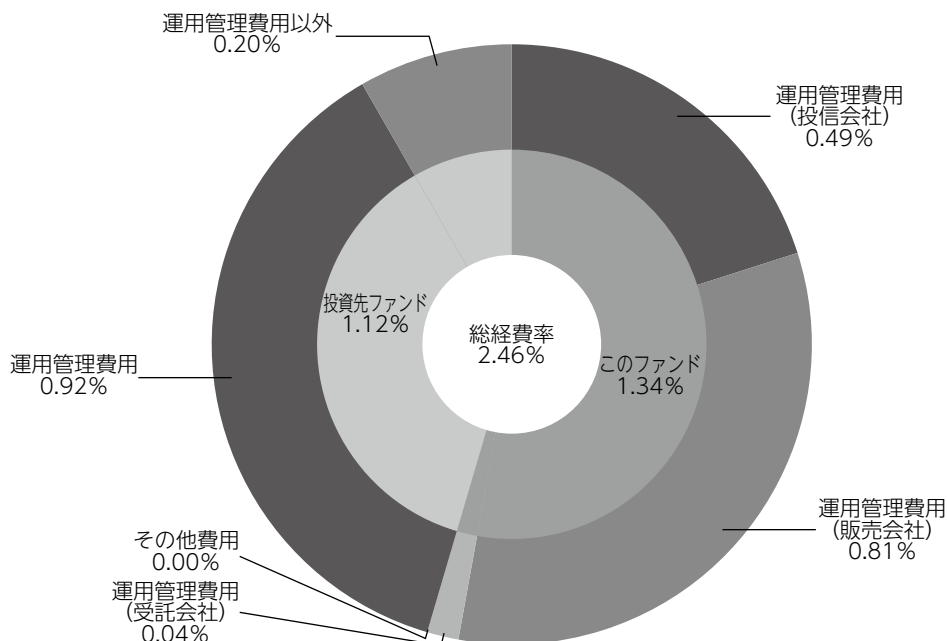
(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(注4) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く）が支払った費用を含みません。

(参考情報)

◆総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は2.46%です。



総経費率 (①+②+③)	2.46%
①このファンドの費用の比率	1.34%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.92%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.20%

(注1) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

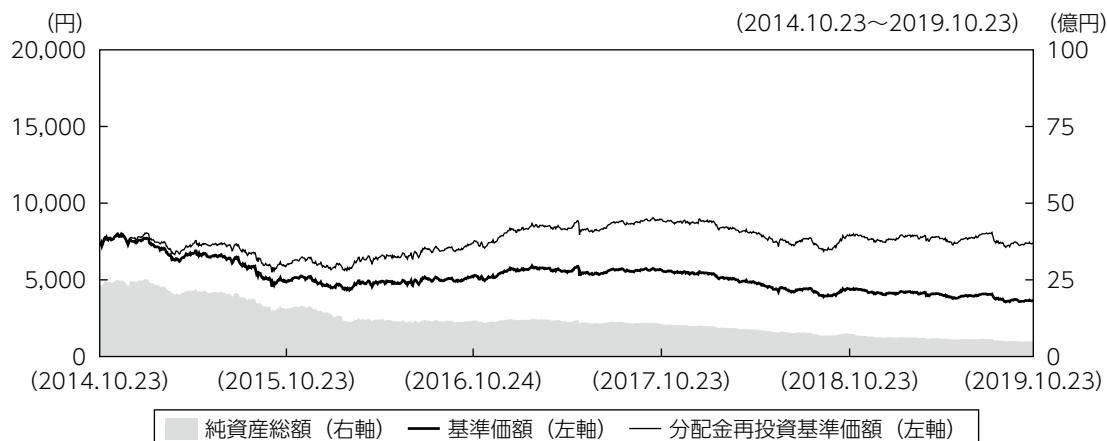
(注4) 投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注5) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注6) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

最近5年間の基準価額等の推移



(注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。

(注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

(注3) 分配金再投資基準価額は、2014年10月23日の基準価額に合わせて指数化しています。

		2014年10月23日 期首	2015年10月23日 決算日	2016年10月24日 決算日	2017年10月23日 決算日	2018年10月23日 決算日	2019年10月23日 決算日
基準価額 (分配落)	(円)	7,355	4,851	5,192	5,638	4,411	3,608
期間分配金合計 (税引前)	(円)	—	1,290	750	600	600	500
分配金再投資基準価額の騰落率	(%)	—	△19.4	24.9	20.9	△11.1	△7.2
純資産総額	(百万円)	2,324	1,539	1,160	1,053	742	485

(注) 当ファンドのコンセプトに適した指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指標を定めておりません。

投資環境

ハイブリッド証券市場は上昇しました。グローバル経済に対する減速懸念が高まり、F R B（米連邦準備理事会）とE C B（欧州中央銀行）が金融緩和姿勢を強めたことから、主要先進国の国債利回りは低下（価格は上昇）しました。投資家のリスクセンチメントが安定的に推移したこと、国債利回りがさらに低下する中で投資家が高い利回りを求める動きが強まったことから、信用スプレッドは縮小しました。

ブラジルリアル／円相場は円高リアル安となりました。当作成期は、米中貿易摩擦への懸念やグローバル経済に対する減速懸念が高まったことがリアル安の主な要因となりました。年金改革法案が進展し財政健全化への期待が高まったことはプラス材料でしたが、国内経済の減速傾向が明らかになる中、弱いインフレ見通しを背景に、ブラジル中央銀行が金融緩和姿勢を強め、政策金利を引き下げたこともリアル安の要因となりました。

国内短期金融市場では、3ヵ月物国庫短期証券利回りは△0.3%台から△0.0%台のレンジで推移しました。F R Bが、米中貿易問題の深刻化が米国景気に悪影響を与えるのではないかとの見方から再び金融緩和姿勢を強める中、日銀は消費増税の影響を見極めるため緩和的な金融政策を維持しています。そのため、3ヵ月物国庫短期証券利回りは小幅な動きとなりました。

ポートフォリオについて

●当ファンド

ダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス（B R L）の組入比率は原則として高位を維持し、D I A Mマネーマザーファンドへの投資も行いました。

●ダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス（B R L）

世界の主要金融機関が発行するハイブリッド証券を中心にポートフォリオを構成しました。発行体の業績動向や信用力に加えて、ハイブリッド証券特有のリスクを評価し、分散投資を基本としました。国別配分においては、フランス、米国、英国のウェイトを高く維持しました。債券種別においては、期限付劣後債のみのポートフォリオとしました。

また、ユーロ、米ドルなど複数通貨（以下、「原資産通貨」といいます。）を売り予約し、ブラジルリアルを買い予約する為替取引を行いました。

●D I A Mマネーマザーファンド

残存期間の短い国債や政府保証債、地方債などで運用を行いました。

分配金

当作成期の収益分配金につきましては運用実績等を勘案し、以下の表の通りとさせていただきます。なお、収益分配金に充てなかった利益は信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

■分配原資の内訳（1万口当たり）

項目	第112期	第113期	第114期	第115期	第116期	第117期
	2019年4月24日 ～2019年5月23日	2019年5月24日 ～2019年6月24日	2019年6月25日 ～2019年7月23日	2019年7月24日 ～2019年8月23日	2019年8月24日 ～2019年9月24日	2019年9月25日 ～2019年10月23日
当期分配金（税引前）	40円	40円	40円	40円	40円	40円
対基準価額比率	1.03%	1.00%	0.97%	1.08%	1.10%	1.10%
当期の収益	40円	40円	40円	40円	40円	40円
当期の収益以外	-円	-円	-円	-円	-円	-円
翌期繰越分配対象額	1,363円	1,368円	1,373円	1,376円	1,378円	1,382円

（注1）「当期の収益」および「当期の収益以外」は、小数点以下切捨てで算出しているためこれらを合計した額と「当期分配金（税引前）」の額が一致しない場合があります。

（注2）当期分配金の「対基準価額比率」は「当期分配金（税引前）」の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。また、小数点第3位を四捨五入しています。

（注3）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後・繰越欠損補填後の売買益（含、評価益）」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備積立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。

今後の運用方針

●当ファンド

引き続き、ダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス（B R L）を高位に組入れることを基本とした運用を行います。また、D I A Mマネーマザーファンドへの投資も行います。

●ダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス（B R L）

主要先進国の国債利回りが低水準で推移する中、高い利回りを享受できるハイブリッド証券に対する投資家の需要は根強く、市場は堅調に推移すると思われます。引き続き、発行国、発行体、銘柄の分散を十分に図りながら、世界の主要金融機関に継続して投資します。銘柄選択においては、繰上償還リスク、利息・配当繰延リスクなど、ハイブリッド証券特有のリスクが債券価格に十分織り込まれた銘柄を厳選します。加えて、「原資産通貨」を売り予約し、ブラジルリアルを買い予約する為替取引を行います。

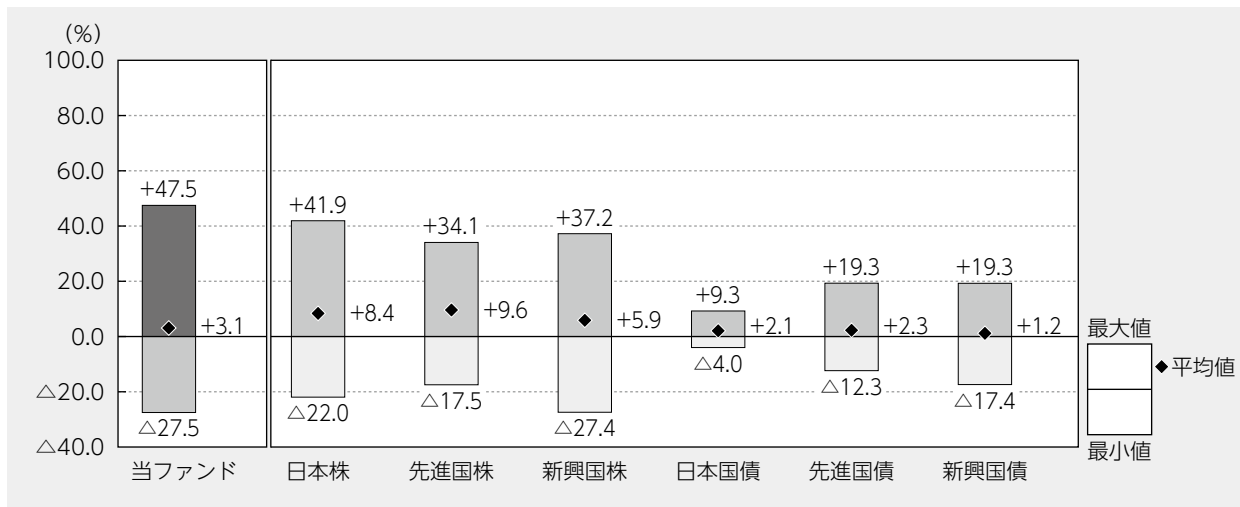
●D I A Mマネーマザーファンド

日銀の物価目標である2%まではまだ距離があるため、当面は金融政策を据え置くと予想されていません。今後も公社債を中心に投資を行い、安定的な運用をめざしていきます。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／債券
信託期間	2010年1月20日から2020年1月23日までです。
運用方針	信託財産の成長を図ることを目的として、積極的な運用を行います。
主要投資対象	主として円建ての外国投資信託である「ダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス (B R L)」の投資信託証券へ投資を行います。また、証券投資信託である「D I A Mマネーマザーファンド」受益証券への投資も行います。なお、短期金融商品等に直接投資する場合があります。
運用方法	<p>主として円建ての外国投資信託への投資を通じて、先進国の金融機関(*1)が発行したハイブリッド証券(*2)に実質的な投資を行います。外国投資信託への投資比率は、原則として高位を保ちます。</p> <p>(*1) 金融機関に関連する特別目的会社を含みます。</p> <p>(*2) ハイブリッド証券とは、普通社債と株式の中間的特性を有する有価証券であり、劣後債、優先出資証券などをいいます。</p> <p>外国投資信託においては、ユーロ、米ドルなど複数通貨(以下、「原資産通貨」といいます。)建てのハイブリッド証券に投資しますが、この「原資産通貨」を売り予約し、ブラジルレアルを買い予約する為替取引を行います。</p>
分配方針	<p>決算日(原則として毎月23日。休業日の場合は翌営業日。)に、経費控除後の利子配当等収益および売買益(評価益を含みます。)等の全額を分配対象額とし、基準価額水準、市況動向等を勘案して、分配金額を決定します。原則として利子配当等収益等を中心に安定分配を行うことを基本とします。ただし、分配対象額が少額の場合は分配を行わない場合があります。また、毎年1月および7月の決算時には、上記安定分配相当額に委託会社が決定する額を付加して分配する場合があります。</p> <p>「原則として利子配当等収益等を中心に安定分配を行う」方針としていますが、これは、運用による収益が安定したものになることや基準価額が安定的に推移すること等を示唆するものではありません。また、基準価額の水準、運用の状況等によっては安定分配とならない場合があることにご留意ください。</p>

代表的な資産クラスとの騰落率の比較



2014年10月～2019年9月

(注1) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注2) 上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を、ファンドおよび代表的な資産クラスについて表示し、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。なお、上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注3) 当ファンドの騰落率は、税引前の分配金を再投資したものと計算しています。

*各資産クラスの指数

日本株…東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株…MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株…MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債…NOMURA-BPI国債

先進国債…FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債…JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースィファイド（円ベース）

（注）海外の指数は為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

※各指数については後掲の＜代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について＞をご参照ください。

当ファンドのデータ

当ファンドの組入資産の内容 (2019年10月23日現在)

世界ハイブリッド証券ファンド通貨選択シリーズ (毎月分配型) <ブラジルリアルコース>

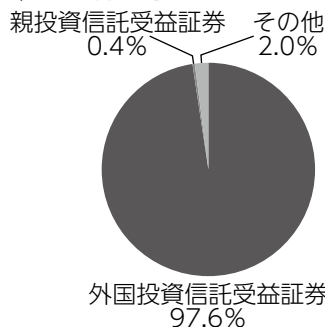
◆組入ファンド等 (組入ファンド数：2ファンド)

	第117期末
	2019年10月23日
ダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス (BRL)	97.6%
D I A M マネー マザー ファンド	0.4
その他	2.0

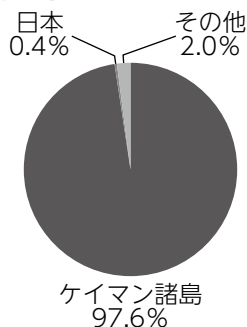
(注1) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

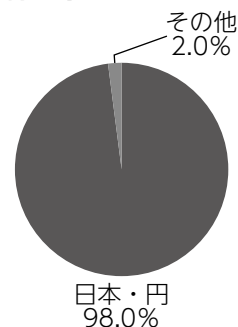
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



(注1) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

純資産等

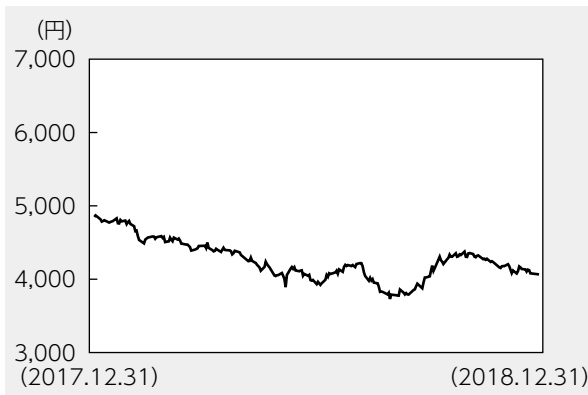
項目	第112期末	第113期末	第114期末	第115期末	第116期末	第117期末
	2019年5月23日	2019年6月24日	2019年7月23日	2019年8月23日	2019年9月24日	2019年10月23日
純資産総額	555,430,590円	564,103,056円	568,062,023円	508,633,664円	490,134,921円	485,139,624円
受益権総口数	1,448,353,509口	1,425,300,702口	1,397,600,574口	1,384,545,759口	1,364,436,003口	1,344,510,962口
1万円当たり基準価額	3,835円	3,958円	4,065円	3,674円	3,592円	3,608円

(注) 当作成期間 (第112期～第117期) 中における追加設定元本額は34,394,839円、同解約元本額は138,643,349円です。

組入ファンドの概要

【ダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス (BRL)】（計算期間 2018年1月1日～2018年12月31日）

◆基準価額の推移



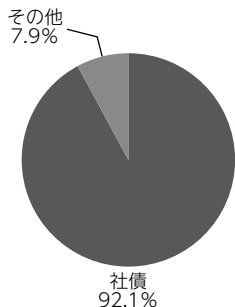
◆組入上位10銘柄

銘柄名	通貨	比率
SKANDINAV ENSKI 05/28/26	ユーロ	3.6%
STANDARD CHART 3.63% 11/23/22	ユーロ	3.6
BPCE 4.63% 07/18/23	ユーロ	3.5
CREDIT AGRICOLE 7.38% 12/18/23	イギリス・ポンド	3.2
SANTANDER ISSUA 2.50% 03/18/25	ユーロ	3.1
SWEDBANK AB FXtoVA 11/22/27 EMTN	ユーロ	3.0
KBC GROUP NV FXtoVA 09/18/29 EMTN	ユーロ	3.0
BANQ FED CRD MU 3.00% 05/21/24	ユーロ	2.9
ABN AMRO BANK N 7.125% 07/06/2022	ユーロ	2.8
SOCIETE GENERAL 4.00% 06/07/23	ユーロ	2.6
組入銘柄数	48銘柄	

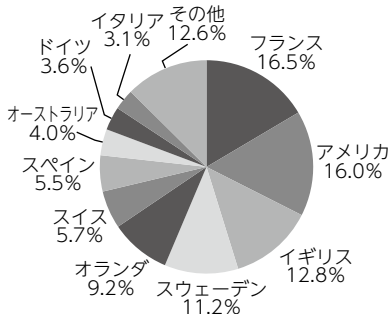
◆1口当たりの費用明細

費用明細については開示されていないため、掲載していません。

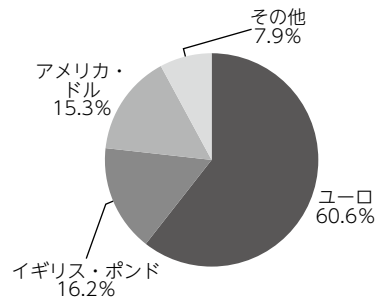
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分

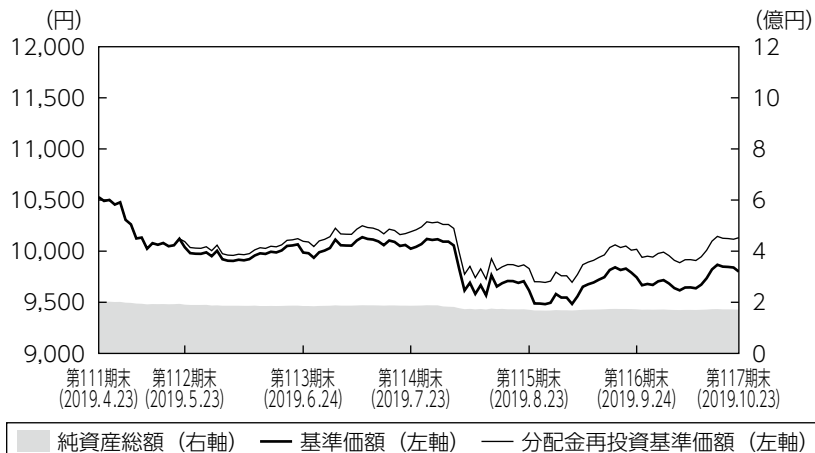


- (注1) 基準価額の推移はダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス (BRL) の計算期間（決算日が休日の場合は前営業日まで）のもので、また、分配金を再投資したものとアセットマネジメントOneが作成したものです。
- (注2) 組入上位10銘柄、資産別配分、国別配分、通貨別配分については、ダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンドの決算日（決算日が休日の場合は前営業日）現在の状況を表示しております。なお、組入外貨建資産については、ダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス (BRL) において、「原資産通貨」を売り予約し、ブラジルリアルを買い予約する為替取引を行っています。
- (注3) 比率はダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンドの純資産総額に対する組入有価証券評価額の割合です。
- (注4) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。
- (注5) 国別配分については、上位11位以下をその他に含めて集計しています。
- (注6) 組入上位10銘柄、資産別配分、国別配分、通貨別配分のデータは、管理事務代行会社であるMizuho Bank(USA)のデータを基にアセットマネジメントOneが作成したものです。組入全銘柄や費用の総額に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

DIAMマネーマザーファンドの概要については、11ページをご覧ください。

運用経過の説明

基準価額等の推移



第112期首： 10,528円
 第117期末： 9,800円
 (既払分配金330円)
 騰落率： △3.8%
 (分配金再投資ベース)

- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、期首の基準価額に合わせて指数化しています。
- (注4) 当ファンドはベンチマークを定めておりません。

基準価額の主な変動要因

ハイブリッド証券は、対国債での信用スプレッド（利回り格差）が縮小するとともに、世界的な金利低下を背景に債券価格が上昇したことがプラス要因となりました。中国元は米中貿易摩擦が激化したことを主因に下落しました。更に、米国が中国を為替操作国に認定したと発表した後、中国当局が1ドル＝7元を超える人民元安を容認したことも、人民元安の要因となりました。その結果、為替のマイナス要因が証券価格上昇のプラス要因を上回り基準価額は下落しました。

◆組入ファンドの当作成期間の騰落率

組入ファンド	騰落率
ダイアム フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス (CNY)	△3.2%
D I A Mマネーマザーファンド	0.0%

(注) ダイアム フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス (CNY) の騰落率は、分配金を再投資したものとみなして計算したものです。

1 万口当たりの費用明細

項目	第112期～第117期 (2019年4月24日 ～2019年10月23日)		項目の概要
	金額	比率	
	(a) 信託報酬	67円	
(投信会社)	(25)	(0.249)	
(販売会社)	(40)	(0.406)	
(受託会社)	(2)	(0.021)	
(b) その他費用 (監査費用)	0 (0)	0.001 (0.001)	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用
合計	67	0.677	

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 金額欄は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

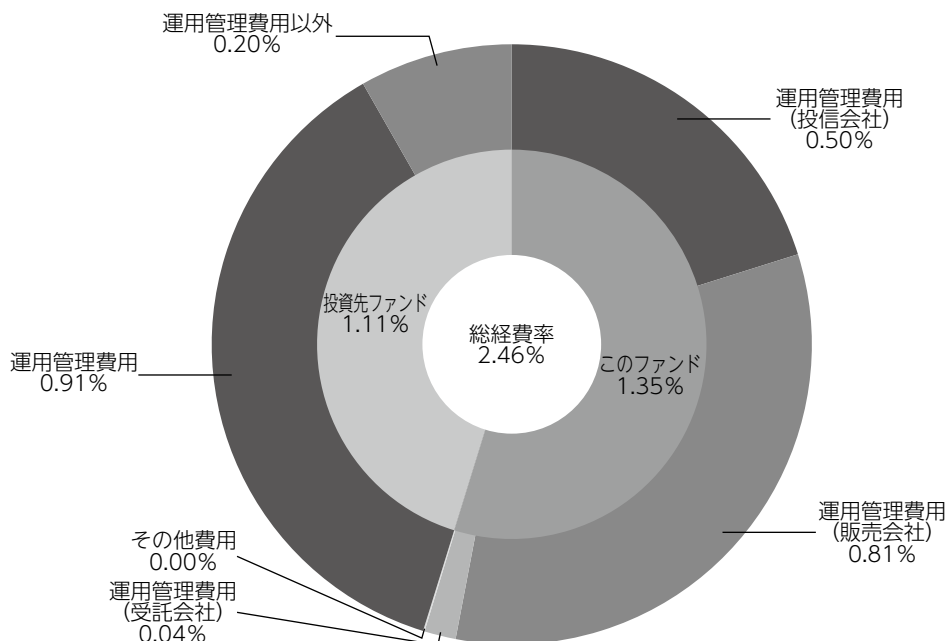
(注3) 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(注4) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く）が支払った費用を含みません。

(参考情報)

◆総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は2.46%です。



総経費率 (①+②+③)	2.46%
①このファンドの費用の比率	1.35%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.91%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.20%

(注1) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

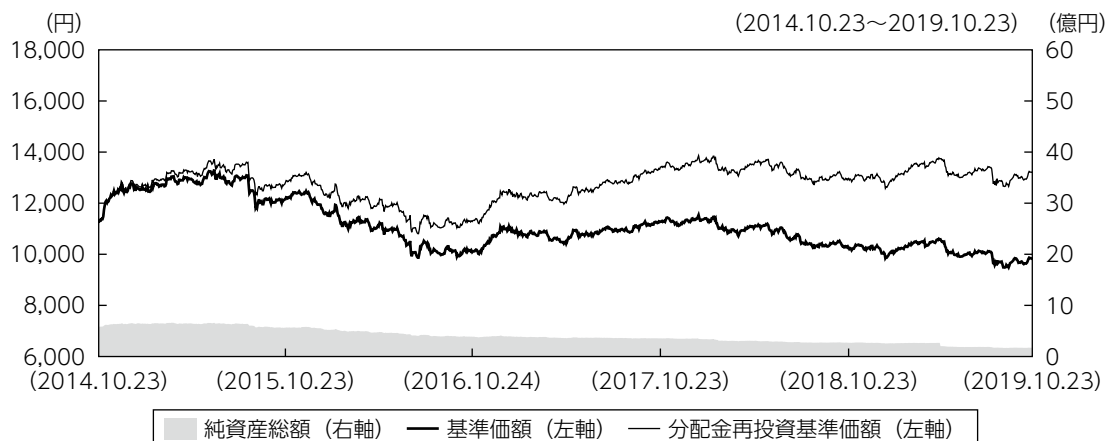
(注4) 投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注5) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注6) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注7) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

最近5年間の基準価額等の推移



- (注1) 分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。
- (注2) 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、2014年10月23日の基準価額に合わせて指数化しています。

		2014年10月23日 期首	2015年10月23日 決算日	2016年10月24日 決算日	2017年10月23日 決算日	2018年10月23日 決算日	2019年10月23日 決算日
基準価額 (分配落)	(円)	11,232	12,153	10,080	11,276	10,261	9,800
期間分配金合計 (税引前)	(円)	—	660	660	660	660	660
分配金再投資基準価額の騰落率	(%)	—	14.0	△11.9	18.9	△3.3	2.0
純資産総額	(百万円)	578	563	386	354	269	171

(注) 当ファンドのコンセプトに適した指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指標を定めておりません。

投資環境

ハイブリッド証券市場は上昇しました。グローバル経済に対する減速懸念が高まり、F R B（米連邦準備理事会）とE C B（欧州中央銀行）が金融緩和姿勢を強めたことから、主要先進国の国債利回りは低下（価格は上昇）しました。投資家のリスクセンチメントが安定的に推移したこと、国債利回りがさらに低下する中で投資家が高い利回りを求める動きが強まったことから、信用スプレッドは縮小しました。

中国元／円相場は円高中国元安となりました。当作成期は、米中貿易摩擦の激化が中国元安の主な要因となりました。米国の中国製品に対する関税引き上げに対して、中国も米国からの輸入品に対する関税を引き上げる方針を報復措置として発表しました。2019年8月に入り、米国が中国を為替操作国に認定したと発表した後、中国当局が1ドル＝7元を超える人民元安を容認したことを受け、人民元安がさらに進みました。

国内短期金融市場では、3ヵ月物国庫短期証券利回りは△0.3%台から△0.0%台のレンジで推移しました。F R Bが、米中貿易問題の深刻化が米国景気に悪影響を与えるのではないかとの見方から再び金融緩和姿勢を強める中、日銀は消費増税の影響を見極めるため緩和的な金融政策を維持しています。そのため、3ヵ月物国庫短期証券利回りは小幅な動きとなりました。

ポートフォリオについて

●当ファンド

ダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス（CNY）の組入比率は原則として高位を維持し、D I A Mマネーマザーファンドへの投資も行いました。

●ダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス（CNY）

世界の主要金融機関が発行するハイブリッド証券を中心にポートフォリオを構成しました。発行体の業績動向や信用力に加えて、ハイブリッド証券特有のリスクを評価し、分散投資を基本としました。国別配分においては、フランス、米国、英国のウェイトを高く維持しました。債券種別においては、期限付劣後債のみのポートフォリオとしました。

また、ユーロ、米ドルなど複数通貨（以下、「原資産通貨」といいます。）を売り予約し、中国元を買い予約する為替取引を行いました。

●D I A Mマネーマザーファンド

残存期間の短い国債や政府保証債、地方債などで運用を行いました。

分配金

当作成期の収益分配金につきましては運用実績等を勘案し、以下の表の通りとさせていただきます。なお、収益分配金に充てなかった利益は信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

■分配原資の内訳（1万口当たり）

項目	第112期	第113期	第114期	第115期	第116期	第117期
	2019年4月24日 ～2019年5月23日	2019年5月24日 ～2019年6月24日	2019年6月25日 ～2019年7月23日	2019年7月24日 ～2019年8月23日	2019年8月24日 ～2019年9月24日	2019年9月25日 ～2019年10月23日
当期分配金（税引前）	55円	55円	55円	55円	55円	55円
対基準価額比率	0.54%	0.55%	0.55%	0.57%	0.56%	0.56%
当期の収益	55円	55円	55円	55円	55円	55円
当期の収益以外	-円	-円	-円	-円	-円	-円
翌期繰越分配対象額	3,177円	3,178円	3,184円	3,186円	3,196円	3,203円

（注1）「当期の収益」および「当期の収益以外」は、小数点以下切捨てで算出しているためこれらを合計した額と「当期分配金（税引前）」の額が一致しない場合があります。

（注2）当期分配金の「対基準価額比率」は「当期分配金（税引前）」の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。また、小数点第3位を四捨五入しています。

（注3）「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後・繰越欠損補填後の売買益（含、評価益）」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「分配準備積立金」および「収益調整金」から分配に充当した金額です。

今後の運用方針

●当ファンド

引き続き、ダイヤモンドフィナンシャルセキュリティーズファンドクラス（CNY）を高位に組入れることを基本とした運用を行います。また、D I AMマネーマザーファンドへの投資も行います。

●ダイヤモンドフィナンシャルセキュリティーズファンドクラス（CNY）

主要先進国の国債利回りが低水準で推移する中、高い利回りを享受できるハイブリッド証券に対する投資家の需要は根強く、市場は堅調に推移すると思われます。引き続き、発行国、発行体、銘柄の分散を十分に図りながら、世界の主要金融機関に継続して投資します。銘柄選択においては、繰上償還延滞リスク、利息・配当繰延リスクなど、ハイブリッド証券特有のリスクが債券価格に十分織り込まれた銘柄を厳選します。加えて、「原資産通貨」を売り予約し、中国元を買い予約する為替取引を行います。

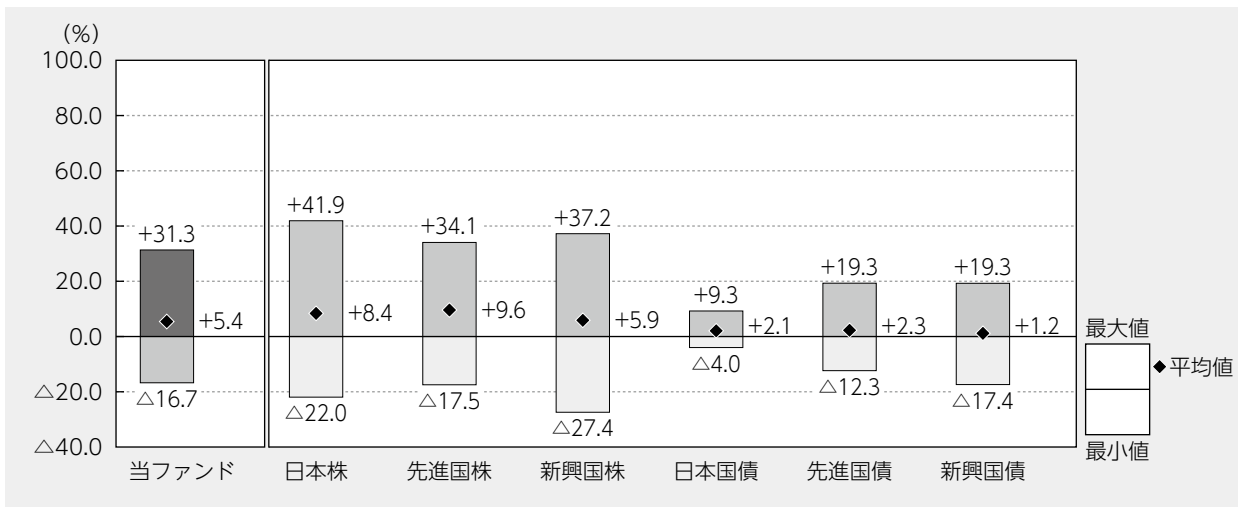
●D I AMマネーマザーファンド

日銀の物価目標である2%まではまだ距離があるため、当面は金融政策を据え置くと予想されています。今後も公社債を中心に投資を行い、安定的な運用をめざしていきます。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／債券
信託期間	2010年1月20日から2020年1月23日までです。
運用方針	信託財産の成長を図ることを目的として、積極的な運用を行います。
主要投資対象	主として円建ての外国投資信託である「ダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス (CNY)」の投資信託証券へ投資を行います。また、証券投資信託である「DIAMマネーマザーファンド」受益証券への投資も行います。なお、短期金融商品等に直接投資する場合があります。
運用方法	<p>主として円建ての外国投資信託への投資を通じて、先進国の金融機関(*1)が発行したハイブリッド証券(*2)に実質的な投資を行います。外国投資信託への投資比率は、原則として高位を保ちます。</p> <p>(*1) 金融機関に関連する特別目的会社を含みます。</p> <p>(*2) ハイブリッド証券とは、普通社債と株式の中間的特性を有する有価証券であり、劣後債、優先出資証券などをいいます。</p> <p>外国投資信託においては、ユーロ、米ドルなど複数通貨(以下、「原資産通貨」といいます。)建てのハイブリッド証券に投資しますが、この「原資産通貨」を売り予約し、中国元を買い予約する為替取引を行います。</p>
分配方針	<p>決算日(原則として毎月23日。休業日の場合は翌営業日。)に、経費控除後の利子配当等収益および売買益(評価益を含みます。)等の全額を分配対象額とし、基準価額水準、市況動向等を勘案して、分配金額を決定します。原則として利子配当等収益等を中心に安定分配を行うことを基本とします。ただし、分配対象額が少額の場合は分配を行わない場合があります。また、毎年1月および7月の決算時には、上記安定分配相当額に委託会社が決定する額を付加して分配する場合があります。</p> <p>「原則として利子配当等収益等を中心に安定分配を行う」方針としていますが、これは、運用による収益が安定したものになることや基準価額が安定的に推移すること等を示唆するものではありません。また、基準価額の水準、運用の状況等によっては安定分配とならない場合があることにご留意ください。</p>

代表的な資産クラスとの騰落率の比較



2014年10月～2019年9月

(注1) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注2) 上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を、ファンドおよび代表的な資産クラスについて表示し、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。なお、上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注3) 当ファンドの騰落率は、税引前の分配金を再投資したものと計算しています。

*各資産クラスの指数

日本株…東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

先進国株…MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

新興国株…MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円ベース）

日本国債…NOMURA-BPI国債

先進国債…FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ベース）

新興国債…JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースィファイド（円ベース）

（注）海外の指数は為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

※各指数については後掲の＜代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について＞をご参照ください。

当ファンドのデータ

当ファンドの組入資産の内容 (2019年10月23日現在)

世界ハイブリッド証券ファンド通貨選択シリーズ (毎月分配型) <中国元コース>

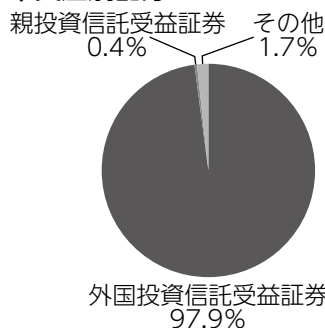
◆組入ファンド等 (組入ファンド数：2ファンド)

	第117期末
	2019年10月23日
ダイヤモンド ファンド クラス (CNY)	97.9%
D I A M マネーマザーファンド	0.4
その他	1.7

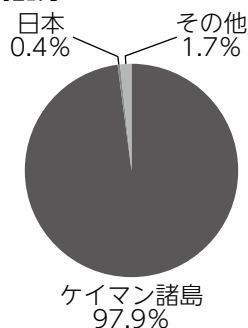
(注1) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

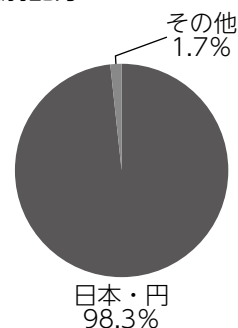
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



(注1) 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。

純資産等

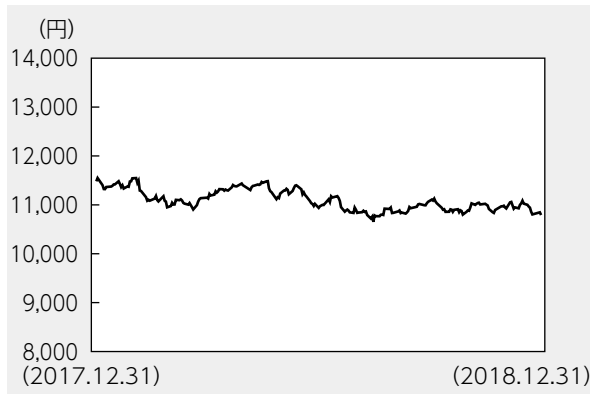
項目	第112期末	第113期末	第114期末	第115期末	第116期末	第117期末
	2019年5月23日	2019年6月24日	2019年7月23日	2019年8月23日	2019年9月24日	2019年10月23日
純資産総額	190,826,452円	185,565,313円	186,418,577円	170,944,134円	172,552,439円	171,373,460円
受益権総口数	190,090,386口	185,802,690口	185,963,080口	177,782,573口	177,079,506口	174,862,907口
1万口当たり基準価額	10,039円	9,987円	10,024円	9,615円	9,744円	9,800円

(注) 当作成期間 (第112期～第117期) 中における追加設定元本額は904,100円、同解約元本額は18,490,753円です。

組入ファンドの概要

【ダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス (CNY)】（計算期間 2018年1月1日～2018年12月31日）

◆基準価額の推移



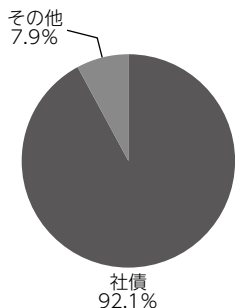
◆組入上位10銘柄

銘柄名	通貨	比率
SKANDINAV ENSKI 05/28/26	ユーロ	3.6%
STANDARD CHART 3.63% 11/23/22	ユーロ	3.6%
BPCE 4.63% 07/18/23	ユーロ	3.5%
CREDIT AGRICOLE 7.38% 12/18/23	イギリス・ポンド	3.2%
SANTANDER ISSUA 2.50% 03/18/25	ユーロ	3.1%
SWEDBANK AB FXtoVA 11/22/27 EMTN	ユーロ	3.0%
KBC GROUP NV FXtoVA 09/18/29 EMTN	ユーロ	3.0%
BANQ FED CRD MU 3.00% 05/21/24	ユーロ	2.9%
ABN AMRO BANK N 7.125% 07/06/2022	ユーロ	2.8%
SOCIETE GENERAL 4.00% 06/07/23	ユーロ	2.6%
組入銘柄数	48銘柄	

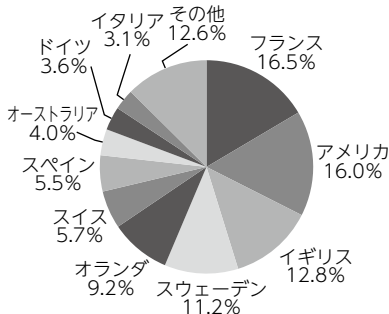
◆1口当たりの費用明細

費用明細については開示されていないため、掲載していません。

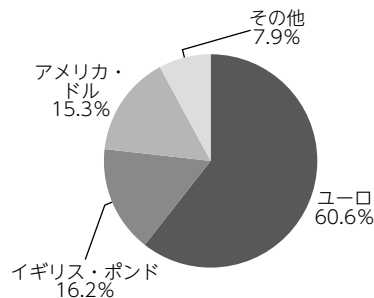
◆資産別配分



◆国別配分



◆通貨別配分



- (注1) 基準価額の推移はダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス (CNY) の計算期間（決算日が休日の場合は前営業日まで）のもので、また、分配金を再投資したものとアセットマネジメントOneが作成したものです。
- (注2) 組入上位10銘柄、資産別配分、国別配分、通貨別配分については、ダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンドの決算日（決算日が休日の場合は前営業日）現在の状況を表示しております。なお、組入外貨建資産については、ダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンド クラス (CNY) において、「原資産通貨」を売り予約し、中国元を買い予約する為替取引を行っています。
- (注3) 比率はダイヤモンド フィナンシャル セキュリティーズ ファンドの純資産総額に対する組入有価証券評価額の割合です。
- (注4) 現金等はその他として表示しています。なお、その他は未払金等の発生によりマイナスになることがあります。
- (注5) 国別配分については、上位11位以下をその他に含めて集計しています。
- (注6) 組入上位10銘柄、資産別配分、国別配分、通貨別配分のデータは、管理事務代行会社であるMizuho Bank(USA)のデータを基にアセットマネジメントOneが作成したものです。組入全銘柄や費用の総額に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

D I A Mマナーマザーファンドの概要については、11ページをご覧ください。

<代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

- 「東証株価指数（TOPIX）」は、東京証券取引所第一部に上場されているすべての株式の時価総額を指数化したものです。同指数は、株式会社東京証券取引所（株東京証券取引所）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、(株)東京証券取引所が有しています。
- 「MSCIコクサイ・インデックス」は、MSCI Inc. が開発した株価指数で、日本を除く世界の主要先進国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「MSCIエマージング・マーケット・インデックス」は、MSCI Inc. が開発した株価指数で、新興国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc. に帰属します。また、MSCI Inc. は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「NOMURA-BPI国債」は、野村證券株式会社が国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表すために開発した投資収益指数です。同指数の知的財産権その他一切の権利は野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、同指数の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。
- 「FTSE世界国債インデックス（除く日本）」は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。
- 「JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド」は、J. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが公表している新興国の現地通貨建ての国債で構成されている時価総額加重平均指数です。同指数に関する著作権等の知的財産その他一切の権利はJ. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。また、同社は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

